

昭和三十一年六月二十八日招集

第二回定例会(第一日)會議錄



昭和三十一年館山市議会第二回定例会会議録(第一号)

昭和三十一年六月二十八日招集

議長(石井潔君)申し上げます。本日より出席議員数三十二名  
こより。第二回市議会定例会を開催いたします。

議長(石井潔君)会議に先立ちまして申し上げます。御了解  
を得ておきたいことは、だんだん暑くなりまして、当分  
の間、略衣をもって会議に臨んでいただくようお願いい  
たします。

なお申し上げます。本定例会に議案説明のため、田村  
市長、小出助役、完戸総務課長、唐沢保険課長、  
吉田商工水産課長、真田収入役代理、新井建設課長、  
高木農産統計課長、山谷秘書課長、長谷川福祉  
事務所長、羽山厚生課長、伊藤戸籍課長、黒瀬

税務第一課長、山口税務第二課長、和田教育委員  
長、鶴沢庶務課長、関監査委員、岡崎選挙管  
理委員書記長、以上う出席を求めまして、御報告  
いたします。

議長（石井潔君）会議録署名人う決定を行ないます。  
お諮りいたします。従来う例にちらいまして議長う  
指名により決定いたしますことに御異議ございませ  
んか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって十一番  
議員伊勢仙之助君、三十一番議員飯田義男君  
以上両君に決定いたします。

議長（石井潔君）ついで会期う決定を行ないます。  
本定例会う会期につきまゝては、会議規則う定める

ところによりまして、議会運営委員会より意見を求めましたところ、本日と明日の二日間という御意見見であります。た。お諮りいたします。会期を二日と定めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。よってさう決定されました。この宣告をもって会議規則第五条第二項の通知に代えますので御了承願います。ついで議案を配布いたします。

議長(石井潔君)休憩前に引き続いて再開いたします。議案の配布もゆけございせんか。はいものと認めます。本日の議事日程はお手許に配布申し上げました日程

表により逐次上程いたしたいと思います。御異議  
ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よってさよう  
決定いたします。

議長（石井潔君）それでは日程第一 報告第九号、報告  
第十号一括上程をいたします。

（書記朗読）

監査委員（関武夫君）六月十三日実施いたしました  
昭和三十年年度および三十一年度六月例月検査の結果  
果について御報告いたします。

まず、三十年年度でございますが、一般会計、特別会  
計、この五月末で三十年度より出納検査をいたわけて  
ございます。その数字でございますが、市税におきま

ーて収入額合計が一億一千五百二十六万九千八百八十円。  
これは予算に対して約八七・九パーセントでございます。  
調定に対しては約七三・六パーセントでございます。  
さらにこの額を現年度と滞納繰越分にわけますと  
現年度におきましては徴税率は調定額に対して  
約八一・九パーセントでございます。

滞納繰越分は調定額に対して三九・四パーセントで  
ございます。市税と税外収入を合計いたしますと二  
億二千九百六十二万五千九百八十九円。この数字は予  
算に対して約八六・六パーセントでございます。歳出  
におきまして歳出の支払額が合計が二億四千三百  
七十七万八千三百二十七円となっておりますが、これは  
予算に対して約九二パーセントでございます。五月中  
税金の徴収が非常に成績が良好でありまして、予

定額をはるかに突破いたしましたために繰上需用が  
 予定よりまたグツと減りまして一千四百十五万二千三  
 百八十八円をもって止まりました。市税におきまする  
 欠損額に四百七十四万二千四百五十二円という数字が上  
 がっております。

これは四月末におきましては二百八十二万四千九百八円で  
 ありまして、五月中に百九十一万七千三百五十四円  
 増加したわけでございます。今までの欠損は大体に  
 おいて二十三年度、四年度のものでございますが、今  
 回二十六年度、七年度のものも若干現われておりま  
 すので、とくに注意をしてみたいてありますが、いずれ  
 も現在この土地にいない。また行先も不明というも  
 でございます。とくに固定資産税において二十六年度  
 七年度若干ございますので、調査いたしましたのが、これは



すでにこの土地の家を売り払っていない人、よそへ行って  
あちらの市へ徴収を依頼したか、すでにその人が死んで  
おったか、あるいは会社が解散してしまつてすでにない。  
そういうものでございます。

つぎに特別会計に移りまして、公益質屋につきまゝでは、  
この月は数字が動きがございませんで、先月をまゝで  
ございます。国民健康保険欠損額、その他一部負担  
金、欠損額で合計六十二万五千九百九十九円がでております。  
これはいづれも合併によります。旧村から引き継がれまし  
た二十三年度、四年度のものをございます。豊房診療  
所につきまゝでは、この表によつて御了承いただきます。  
以上で報告第九号の説明を終りまして、つぎに第十号  
に移ります。昭和三十一年度の会計でございます。

一般会計におきまする、市税、収入が一十二百二十九万

二千五百五月でございしますが、その内訳のうち、主なものには、固定資産税が八百二十万月、たばこ消費税が四月分として百十九万三百万月、額百三十五万月等でございします。歳出におきます二千三百三十二万四千四百二十三月は、教育費が二百九十万月、社会労働施設費が三百万月、諸支出金が九百五十七万月等が主なるものでございしました。一時借入金が一千万二千三百三十七万七千八百八十七月、内訳は、資金運用部から六百万月、恩給組合から六百万月、共済組合から二十三万七千七百八十七月でございします。つぎに特別会計に移りまして、公益質屋でございしますが、支出におきます支払利子が一千万五千三百三十八月、市債の利息でございします。

一番下の欄の、まんなかの貸付現在高が二百十四万六千二百二十二月でございしますが、このうち船形が、百六十五万三千二十月、富崎が四十九万五千九百二十月でございしました。

健康保険ならぶに診療所につきまゝでは、この表によつて御了承いただきたいと思ひます。以上で例月々検査報告の説明を終ります。

なお報告に関連性がございますので、この機会に保険課の監査につきまゝて申し上げたいと思ひます。前回の市会で御要求がございまゝたので、六月一日から私ども監査にかかりましたところが實際にかかつてみますと、なかなか——仕事でございます。そこで本日は中間報告とまでは行きませんが、ただこういうふうにいゝ監査をしておるんだということを御報告しておきたいと思ひます。大体監査の重点を保険料の調定料率の算定基礎となつてもう、その調定・支払いてあるところの給付状況、それからとくに昨春秋に切替りまゝた被保険者がふえまゝたので、その切替りゝ状態、その点につきまゝてよく監査

をいたしたい。かように考えまして目下やっておる次第でございすが、ひとつ数字を裏付ける。つまり、これが正しいかどうかということを調べますには、全部の伝票をもう一回見てみたいと数字は正しいかどうか確認ができないのでありまして、実際にやってみますと、相当の日数を要することになります。この点皆さまに御了承を願っておきたいと存じます。本日は数字等につきまゝ、具体的に申し上げる段階にいたっておりませんので、ただこういうふうにやっておるんだということ、御報告しておきたいと思つた次第でございします。

議長（石井潔君）報告に対して御質疑ございせんか。

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よつて日程第一を終ります。

議長（石井潔君）つづいて、日程第二陳情書を上程いたします。

(書記朗読)

ニナ(番)

( ) ただいま上程——に陳情書に對して

提案理由を御説明申します。大体、こゝ陳情書に書いてはございしますが、最近、乗降客が相当多くなりまして、なお、そり——ありますところ、那右の方へ——

——道路につきま——ては、降リる——

大体

三分々——といっても時間的には、変リないと思う。それは安房第二高校、あるいは家政高校、あるいは、その他、住民の交通におきま——ても、朝と夕方には、とくにひどいであリま——て——かも、馭う————相当——あそこは

人々波が押し寄せ、るような状態、でございま——て——ば、——ば、危険にひん——ており、あるいは、事故が相当ある、とございま——て、なお————三軒町、あ、初う住宅街

が相当ある、でございしますが、そり人たちら、危険を防止

するために、かような陳情書をお願いいたうてございます。  
なお、この陳情書の負担金を設けるということにつきま  
しては、こゝは鉄道管理局の方で決定することとござ  
います。が、こゝにつきまゝでは、一切の――

市当局の御協力をいただきまゝして、せひとも――かるべく  
支出していただきたいとかように考えるうてございます。  
なお、こゝに伴いまゝ――

――果道がいまではございます。が、あかから、北  
の方が道路が、いゝであつて、あそこへ新設していただきまゝして  
せひとも交通難を一掃していただきたいと思ひます。  
かように考えらるゝもに、あゝ方面の土地の発展を期する  
ために、かような陳情書を出したうてございまゝ――

誠に――

――なにとぞ議会におきま

――して御採択のほどを切にお願い申し上げる次第でござ

ございます。

議長（石井潔君）お諮りいたします。本陳情書採択に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。なお採択は決定いたしましたのでございますが、処理をいかがいたしますか。お諮りいたします。

三番

（ただいま本陳情書に對しまする説明を議員から説明をいただきました。満場一致御

採択さまじったことに對しまして――

厚く御礼申し上げます。ただいま議長の方からこの取扱についてでございますが、市議会としてこれを採択願って市の方へお伺いいただきまして、市といたしましてこの道路の新設につきまして――

面から行きまゐて、ぜひともこの道路を新設していただくよう——とともにこの負担金を——

の問題につきまゐて市議會および市当局といたしまして、地元民の要望に御賛成願ひまゐりて、管理局の方へこんご陳情に参る予定でございすが、その際におきまゐりて——合わせてこの陳情書にさらに

強かに御声援のほどをお願いいたしたいと思います。議長（石井潔君）ただいま三番議員からいろいろ意見が述べられたんでございすが、採決をいたしまゐて、これを市長の手許へ送付いたすことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本陳情書はこれを採決、市長に送付いたしますことに決定



いたします。

議長(石井潔君) つづいて日程第三、請願書を上程いたします。

(書記朗読)

二十五番

(北条小学校) 講堂改築

五番(萩生田七郎君) ちっと教育委員会の方にお伺いいたします。ただいまより陳情書の内容を拝見いたしますと、非常に予想以上にひどい状態であるように受け取れます。すぐが従来いろいろな事情でできなかったであります。採決に比べれば速やかに着工すると思うのであります。それによつて、その期限が書

いてある。それか、そこに三百万円という。三百万円でこれだけのことができるかどうか、私ども素人ですが、

——これに対しては、この請願書そのものは、

期限づき、それに果たして応じら

ゆるや否や、三百万円でこれだけの施設が果たしてできるかというのを、見通しをひとつお聞きいたします。

（

）ただいま、御質問にお答え申し

上げます。三百万円、総経費で、市が百五十万円、地えで半額を持つということ、果たして三百万円、予算で、その内容に書いておられることが、できるかどうかということ、でございますが、実は、この点につきましても、PTA会の方でも、正確に見積ったものでない、というふうな、いって、一応、

要するに、了解をしており

ます。実は、委員会といたしましても、この請願書が出て

参りまして個々について一応概算考えてみたんですが、  
ますが、もちろん完全に理想的につくるためにはあるい  
はできないかも知れませんが、工費を節減する時期でござ  
いますので、いろいろ設計を考えたが、これだけ、要望  
を満たす限度に止めるならば、その限度内にできるんじやない  
かというふうな見通しをいまして持っております。

それから、期限を切らなくて

あつて、くわという要望でございしますが、いま、見通しといた  
一、ましては、市、財源と関連がございしますが、百五十万円

の

相当困

難な点がございます。そこでまず、私どもといたしましては  
できることなら、一般の人にも迷惑をおよぼしてゐる――

――くわいは年度内に――

お願い

して改修してあげたいと、こういう希望を持っておるわけで

ございます。そう他うもうにつまゝてはできぬば――  
――一応全体が見通しとして――

五番（萩生田七郎君）私はそう一部しか内容みてないんですが、

十一番（

）一応この陳情書をいまみたんですが、――

こゝに関連――ましてすでに当初予算に百万円という盛ら  
れております。百万円を――

私たちが一般にもちろん講堂は学

枝ばかりでなく。——非常に使います。

こういう点から

議会と——とても十分

感謝してできるだけ

修繕しなければならぬと思

うんですが、ただ問題となる点は寄付された額以外にどこ  
だけ金を出すかという点に問題があろうかと思ひます。

御承知のとおり、館山市の学校、講堂、教室、そういう  
ものは既に義務教育を行うところの教室さえも不完  
全であると講堂を——

——いうようか

が

各所にあるのであります。——こういう点からみまいて地  
の力によってあるものは仕方がないんですが、教育予算  
を相当盛り込むという点になりますと、講堂の問題に  
しても那古あり、西岬あり、東あり、西あり、館山もあり  
ますし、ただ、数校講堂が非常に腐敗して北条の講堂  
よりもっと悪いものも市内に相当あります。そのほか

便所の悪いところ。そういうところも市内にたくさんあります。図書館の建設、これも図書館がありますものはつきりして、一般のものは富崎と那古、そのほかにはそれ以外のところは完全な図書館をもっていないという状況であります。その場合——水飲場、こういうものは、おそらく各学校とも完全に整備されていはいんであります。そういう点から、学校当局の要望は、もつともだと私は考えるてあります。

この陳情書はもつともだと思ひますが、ただこれを実施する上において、教育委員会とて、どういう見解に立つて、これをもしわかれが採決した場合にお困りになるんじゃないかという点が懸念されるんですが、これを結局百石町の市費を出して、それに付帶的に条件を呑むという行き方が打ち出さるんではないか、そういう場合に市内

一般の学校と云ふ不均衡さというものをどうしようにお  
考へになつておりますか。例えは、この面からみて、二百万や  
三百万は、素人考えですが、少なくとも講堂自体で三百万ら  
いはかかると思います。そのほかものは、非常な金額にな  
ると思ふんですが、五万や十万の金でとても図書館にしま  
しても、館山も現在図書館を建てたいというふうにして、寄  
付の額も一部進めておるようですが、まだ具体的  
にはなっておりませんが、各学校とも、カがある学校が寄付  
をしてゐるということになります。ただ教育予算を公平  
に割りふるという点について、この陳情書に対して採択した  
場合に委員会としてお困りにならないか。この点を委員会  
から、ひとつ困らないという点を、はっきりと公平に定めるんだ  
という見解を示していただければ、私はこの案に賛成し  
たいと思います。

( ) 誠にごもつともな御質問と拝聴いたします。いろいろ市内の各学校におきまして、それだけ不便不自由を忍んでおる面が非常に多いのでございます。こゝろたひとつゝ—— 的なるものを受け入れた場合、これを実施する場合、他校とアンバランスをどう考えるか、と云ふことでございしますが、当初から、そういう面につきまゝでは考えておるでございしますが、一応北条小学校がここで百五十万という財源を市民、北条地区の学区民の献意が、そういう結果を生んで、いわゆる半額を市費に援助する、というふうな考え方をとりまゝで、講堂としては、今まで考へ通り、大体的に義務的なものでございせんので、市費から相当持ち出すことは考へものでございします。で、重点は講堂に主をおいた方面に寄付金を使つてもらひ、その他



現在、腐朽度を市全般に考えてみましてもここに書いて  
ありますように、非常に腐朽度が<sup>甚</sup>多いところが多いので  
順位から申ししましても、当然ここに書いてある全部とは  
いいませんが、二、三点につきましても、やってみても  
他校とアンバランスにはならないんじゃないかと、このう  
ふうに考えております。カーナが、この点を広く考えま  
すと、この以上、困っているところもあるんじゃないかとい  
う御意見もあるかと思ひますが、一応、やはりこれは財源  
との関係もございますし、地元がそれだけの熱意を示し  
て、寄付をいただきたいという希望も採ります。それで、そ  
の点の調整につきましても、十分考慮しながら、委員会  
でよく協議をいたしまして、不平が起らないように調  
整をとてやる。こういうふうに考えております。

十一番

（重ねてお伺いしますが、仮に本年度、国

庫補助で起債を見積りし、まゝた講堂でなくて学校の教室に対して起債補助が認められなかった場合に百五十万、二百万を投じて教室をつくるお考えがありますかどうか。もしそういうものをつくらなくて講堂建設に対して寄付があつたからといってそれに類する金を支出されますかどうか。もしなされますと、それなら、その教室を講堂というワイトで見解、そういうものについて御説明願いたいと思います。

・市長(田村利男君) 従来から私が申しておりますように起債ならびに起債補助が伴わない建築ならびに工事につきましては、いずれこれを予算に一応計上し、まゝでも着工しないというのが建前になっておりますから、もちろんその場合にあらゆる手段を払い、まして起債ならびに起債補助がくるように努力をいたしますが、こない場

合には翌年度回しというふうなことになると思うわけでございます。従いまゝて北条小学校の講堂の問題に対しまして起債がない限り整備小学校あるいは老朽小学校がでないという現状でありますので、市費を持ち出してまでも例え、公共性や公民館的な図書館であっても本年度においては市費に持ち出しによる図書館の建設修繕ということは一応考えられないということをはつきり申し上げておきます。ただしただいま向うから申し上げて参りまして百五十万円、百万円、工費のうちで一応図書館の整備ということができ得ます。ことになつておりますので、もうった金だけで図書館の整備をまでする。またあと五十万円はもともと北条小学校の図書館は市立図書館ではありませんので、PTAの図書館でありますので、五十万円を市に寄付してもら

うことを遠慮し、まして五十万円があつたら、自分う力に  
 おいて、五十万円をもとにして、図書館の増築を行うよう  
 に、と、そういうふうな指示してあることを申し上げておきます。  
 ○十一番（）こはは教育が大事か、講堂が大事か、

図書館が大事か、いろいろ教育

の問題ですが、

陳情書、そもうは、私は全面的に、地え民、PTAの方

々は、こもつともである。むしろ、私個人の見解ですが、講

堂が市で全面的にもつてゐる。図書館こそ、そういう金で

あつたら、PTA自体あるいは、地え民自体でおつくりにな

る。こははいんじやないか。こういうふうな、図書館と講堂

と、どちらが重要であるか、という問題になりますと、学校

、先生の方より考え方にも、依らなければならぬんであり

ますが、いままで、図書館、そもうが、PTA、

になつてゐる。こ、こういうものであり、まして、百万円ぐら

かけたらうかなりの図書館ができるんじゃないかと思ふんですが、講堂の修理費を一応市で全面的にもってやる方が本筋ではないかと私は一応考えるのであります。

図書館の建設を市でもつよりも、講堂の修理を市でもつ方が筋からいってはいかたというふうに、一応考えるのであります。ただいま、市長さんのお話で起債、国庫補助、そういうものができなくて、教室ができない場合は、一応金を出しは考えない。こういうふうに講堂と教室というものが重さう見解というものを、市長からはっきり示さず、たんであります。私はできれば財源がなくて、非常に苦しいほうが、ケなくとも、教室ぐらひは起債、起したもので、全部とはいいませんが、一教室でも、二教室でも、年度内に例え起債がなくなつてゐたい。またやるんだというくらい、熱意を示していただきたいというふうに

考えるものであります。

この陳情書が出たから、これを

先吞みにして、ここにはつきりとして例えば講堂に

かどくくらいで大工の手間賃がどくくらい

講堂の修理費に何百万円、北側の便所、改修

これを修理するには大体

図書館の建設についても坪数がどくくらい、どういふもので

つくる、じんあいの処理設備の改築、こういうものにつきま

てもどういふ形につくるかというふうなことが出ておりません

ので、これを条件として、この寄付を受けるという見解に

市当局がお立ちにならなければ議会としては、この陳情書

を受け取ることができない。こういうふうには私は考えるのであ

ります。地元石井さんの方から紹介がありまーたんです

が、具体的には、そういうものはなんにもないというふうな

お話で単なる陳情であって、そこまで、まだ、具体的には

進んでいまいというふうな話でしたので、期限とか、金額とか  
そういうものも条件にとらわれないで、いつも財政とにらみ合  
わせてやるんだという見解で市側から御確認願えれば  
私は陳情書に御賛成いたします。

。五番(救生田七郎君) 私先ほどお伺いたうは、  
内容が文字通り、そのまま。

御覧になった上で御紹介なさったと思えん  
です。そうしますと、講堂の修理にしても、ウエイトがある。  
あるいは

緊急度の高いもの、住民に危険を及ぼすもの、こういう  
ものに對しては、速やかに

もうひとつお伺いたうは、いま石井君

三百万でこれだけのものが、できるかどうか、素人考えですが、  
そうしたものができるという前提のもとにやってみなかつたら

市予算でもってこれだけつくってくわという

結果を招来することを私どもは

心配する。ですから

という危険

のないように

二十番(鈴木市蔵君)私はこの陳情書に対してはせむ御採  
扱

あります。が、この前

問題についても義務

教育はせむ、これを

—たいというようにお

願いてあります。んですが、いま助役さん、御答弁の



中に地元が百五十万円の金を出すから、熱意があるからこゝに對してやるといふやうなことを聞いたんですが、よゝみると、教育というものは金うないところは、教育はできぬい。金があるところは、教育ができるというやうな私は解釈するんですが、ぜひやういふことうないやうに、館山市、各小學校に對してあらゆる

教室がない學校もかなりあるやうです。で、こゝを

と、いつて陳情書がきたから、これをやるという見解を持たずに、ぜひ公平に義務教育だけはやつていただきたいと、要望まで、市長さんに願ひいたします。

市長（田村利男君）二十番議員の御発言の趣旨に添うやうにいたしたいと思ひます。

十一番（ ）最後にこゝは、教育長さんにお尋ねする

一 創設 市 議 会  
んですが、一応百万円が予算計上の問題もありますから、少なくとも、こういうものを講堂、そう他つ

に關する施設の問題について、委員会に協議会なり委員会なりを開催さしたんではないかと思ひますが、そうときう開催されたといひましたら、委員会といひましたら、どうような御見解であつたかを御発表願ひたいと思ひます。

（ ）同じ趣旨のものが委員会へも出ましたので、これは市に受け入れてもらうために委員会として取りついで、恰好になります。市に受け入れてもらうことを相談ただけでございまして、その對して、個々に考えて、どうかというするという具體的なことまでは、まだ相談をいたして、ございせん。

二十八番（鳩貫壯作君）この陳情書をお出しになる方たち

お気持ちを考えると一日も早く実現させてもうおうということに考えらるんであります。従いまゝて私は船形や小学校うときうことを思い起こしまゝて賛成するもうであります。――  
教育局員

会では同様うもうが―――たならば予算会で

当然こゝを建設して行く上についてう計画がなければならぬ。こういうことになりは――ないかと思うんですが、それでは、けねば、ここに期限が切てあります。

暑中休暇中にやてもらいたいんだが、期限が切てあります。―――そう場合、―――こう思ううであります。

ります。従いまゝて市議会は今日と明日あるうであります。今日から明日にかけてこの原案をつくっていただいて、こういう案に基いて百万円を使っているんだということをはつきりさせていただきたいと思ひます。

市長（田村利男君） 鳴貴議員にお答えしますが採択になつてから計画を樹てようかと思つていまいて採択にならなければ原案を樹てることともどうかと思つています。二十八番（鳴貴壯作君）なる場合でありますけれど実施計画にこのくらいになるんだという計画、大ざっぱなものでもつくつてもうつてあれば、それを基礎にいて研究もできますけれども、百万円寄付してもらつたんだ。どういうふうにしてやるんだといった場合になんにもわからぬということでは、これは親切なようで、かえつて不親切になります。でありまする故に明日まであるんだから、この予算へかけるのを明日まで延ばしてもらつてもいいから、そういうふうにしてもらいたいと要望するであります。答弁は要りません。

（「採択異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

（二十一番）

議長（石井潔君）お諮りいたします。本陳情書採扱について御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本陳情書を採扱いたします。なおお諮りいたします。

陳情書採扱された処理方法をいかにいたしますか。御

意見を伺います。

二十一番

採択願います。これは市長から既に教育委員会に配布  
いたしまして、御処理願いたいと思います。

議長（石井潔君）お諮りいたします。処理方法といたしまし  
て、教育委員会へ送付するが、本筋であると考えます  
ので、教育委員会へ送付いたしたいと存じますが、御異  
議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）さうに決定いたしました。

二十五番

議長（石井潔君）しばらく休憩いたします。

議長（石井深君）休憩前に引き続いて会議を開きます。

議長（石井深君）日程第四臨時出納検査之会議員の互選について議案を上程いたします。

議長（石井深君）申し上げます。日程第四臨時出納検査之会議員の互選を行ないます。今回互選を行います。五会議員はきたる八月十三日行わします。臨時出納検査に議員四人選ぶことになり、ますが、お手許に配布し申し合わせ協定とあり、方法により決定いたします。御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井深君）御異議なしと認めます。よって議長

副議長 監査委員ならびにこゝまで一度立會議員  
となった議員を除いて全議員により抽せんをもつて  
行ないます。抽籤簿より先端に黒くすみを塗って  
ありますので、当選人と決定をいたします。

議長（石井潔君）抽せんの結果、二番議員 高橋文治君  
十四番議員 磯田周雄君、二十五番議員 石井  
平次君、二十九番議員 小沢光義君、以上四とあり。昭  
和三十一年八月臨時出納検査立會議員を決定いた  
しました。

議長（石井潔君）つづいて日程第五議案第四十六号  
を上程いたします。

（書記朗読）



六七節のうち、荒廃りはなはたしい。こゝ

こゝを

廃止の事務的の手続きをいたしたいと思ひまゝて上程いたしまゝた。御承知のとおり、こゝ施設は、国庫補助を仰いで設立したものでございまして、市が独自で廃止処分等勝手にできない關係上、今回廃止の議決によりまして、知事事に廃止の許可申請をいたしたいと考へまゝて、その後いつでも処分ができる体制におきたいと考へております。なお、こゝ各地方に患者が発生いたしまゝた場合を考慮いたしまゝて、できるだけ速やかに救急車を購入する算の獲得に努力いたす考へております。それで、一日も早く地元民の不安を解消したいと考へておるわけでよろしくお願ひいたします。

二十八番(鳴實杜作君)救急車を獲得するといふお言

葉がありまして、これは市長さんとの了解の上ですか。  
 厚生課長(羽山房雄君)で、できるだけ速やかにと申し上げま  
 したのである。いは来年度、当初予算、あたりになるんじ  
 ゃないかと考えておりますが、その期間に財源をみつけて  
 いただくよう、よく総務課と横の連絡を密にしたいと思  
 います。

二十八番(嶋貫壮作君)少しお早すぎるとございます。  
 早くというお話でありまして、大変結構だと思つて  
 おります。たが、来年度、予算では間に合いません。  
 ことし、予算で買つていただくように骨を折つていた  
 だいた方がいいと思ひます。市長さん、御了解ですか。  
 市長(田村利男君)まだ確たる自信もありませんが、その後  
 いろいろ考へて、車の配車都合によつて、早急に解決方  
 法が得られると確信しております。

十二番(吉田勇治郎君)西岬地区の葬病舎の廃止につきまゝて  
かわがね説明を伺いますと救急車を求めまゝて――  
発生した場合におきまゝては遺ろうないように処置ができ  
るようにするという前提のもとに廃止するものと推察さ  
れます。荒廃しておるから廃止するということは、これは逆  
をいつてゐるんじゃないかと私は解釈するつもりですが、もし現  
在におきまゝで西岬の隔離病舎につきまゝては、正  
荒廃はなげだしいというお言葉がここに盛られてお  
ります。地区民の要望と――まゝては、一応、こゝ際――  
――というふうな声を私お伺いいたしたところ、大  
体におきまゝでは――地域に伝染病が起きれば、  
ここに収容していただくことがもつともいんだと、なぜな  
らば一応館山の遠隔の地まで患者をもって行か  
れ――まゝは、御承知のとおり、こゝは――

問題になります。この建物が、

こういう処置をとってもらう方が一番いいとこういうような希望であります。また現在、段階においては、患者が出ても、迷惑をかけないというような段階ではないと思われ、ますが、この点について、こんごいふ少しやる時期、伝染病が出たならばどうするかという、その処置方について、確たる御説明を承りたいと思っております。その点とこんご廃止されたに對しては、これをどう処置する、場、この二点をお伺いいたします。

○厚生課長(羽山房雄君)お答えいたします。館山市は五万以上十萬以内の人口を持っております。關係上、伝染病、予防法によります。基準によりますと、ベッド数において三十ベッド以上持たなければいけない。こういう規定でございまして、これを各施設ごとにベッド数をみます。

と、西岬が十二ベット、神戸大ベット、富崎大、豊房十二  
館野七、九重六、旧市二十、合計六十九ベットでございます。  
こゝうち、今回普通財産に編入したいと上程いたしました  
ところ——施設うかが二十五ベットでございます。  
そうしますと、残り四十四ベットで一応厚生省ういう基  
準にあります。なお合併後う各地区によります。

地区から発生——た患者数をみてみますと、二十九年  
三十年、三十二年現在でございますが、西岬からは一人も  
患者が出ておりません。こゝを収容者、あるいは自宅治療  
患者、そゝに区分いたしました。調べてみますと、神戸が三  
十年、年度に収容が一人だけであります。つぎに富崎、  
こゝも患者が一人も出ておりません。豊房は二十九年  
度に一人収容いたしました。三十年に一人、なお二十九年  
度に自宅患者一人、都合現在まで、豊房地区は三名出てお

ります。館野地区で申し上げますと、収容患者一人もありません。自宅治療が二十九年に二名、三十年度に一人合計三名でございます。九重地区で申し上げますと、やはり収容患者一人も出ておりません。それで三十年度に自宅発生後自宅で死したもう一名だけでございます。

あと旧市の関係に参りますと、収容患者が二十九年度には一人もありません。三十年に三人、三十一年現在で四名。

自宅治療患者は二十九年度に五名、三十年度に十二名、三十一年度現在自宅で一名、これは死しております。

以上で旧市は—— 合計二十六名出ております。

大体、自宅治療患者と申し上げますと、ジフテリア患者が多いのでございまして、これは収容をほとんどいたっておりません。収容したものは赤痢が疫痢、しょうこう病、こゝ三つが病気でございまして、こういう現在まで

各地方より状況から考えまゝで、必ずしもそこになければ用  
が立たない。こういうこともいえないかと思っています。

こゝ二十九年、三十年に豊房地区から出まゝた患者は、む  
しろ、旧市より隔離病舎に收容されて、非常に患者も  
家族も喜んでゐる状態でございます。いわゆる日用品  
を買いに出るに、とても、近く、店があつたり、あるいは、先  
生が毎日診察にきたり、電話がひいてある関係上、電話  
——非常に利用されます。

そういう関係からいたしましても、合併の五カ年計画にも  
ありますように、廃止統合という線も生まれてくるん  
じゐないかと思ひます。それから、第二問、転用について  
どう考えておるかという御質問ですが、現在、ところ、  
西岬については、転用することは、はっきりした内容はない、  
ありません。ただし、館野地区の病舎については、当初

予算審議の際に総務課長さんから説明にもあ  
 りましたように売却を—たいという考えでございます。  
 これはいずれも果て許可が降りたときでないとその  
 処分ができないでございまして、果て廃止の申請を  
 出す手続上お願いするわけです。よろしくお願いいたします。  
 十二番（吉田勇治郎君）はしばし御説明がありまして、廃  
 止の理由はおぼろげながらわかりました。大体私たち  
 としても廃止すべきは本来だと当初から考えておる  
 もつであります。が、その受け入れ体制について疑問を  
 もつものであります。その点をお伺いしたいと思ひ  
 ますが、発生しないから不必要だということはいい切  
 りないと思つてます。これは皆さん環境がよくなつて  
 あるいは努力によつて病気が出ないということがいい  
 得ると思ひます。不幸にしてこれが発生したならば



こういうものはいかにして

立派なものを作る

一人も利用者

こう解釈

するものですが、その説には、私はあまりにも

——すぎるんじゃないかという感があります。それで要

は発生した場合、遺ろうなく受け入れ体制を——いただくという。確答はいかがですか。

。厚生課長（羽山房雄君）現在あります。救急車で現在のところでは収容しておりますが、これも長距離の場合等非常に衰弱した患者があります等。考慮しなればいけないので、この点先ほど御説明いたしましたように急速に解決したいと考えております。

。五番（救生田七郎君）

ただ、受け入れ体制関係の問題が出ておるんですが、私としては、内容は知りませんが、最近

病舎

に収容されてゐることを喜んでおるんだという説明でありますが、私の聞いた範囲では――

あそこへ行くと殺されて――もうとこんなような――

――いうことを聞いておる。――

清潔な――

――居心地のいい部屋を――

つくっておいてもらつたいと――

こゝじやなんうために――

十九番

（本議案はさる二十六日に厚生委員

会を開きまして採択してこの議案を議会に提出し  
た次第でございます。つきまして伝染病の治療

にあたりましては、できるだけ現在う館山市の状況か  
ら考えまいてなるべくならば中心地の館山へ一括して

そうしてまず、私どもが一番考えますのは、患者に対す  
る処置であります。建物——処置を一刻も

早くしなければならぬという責任があるんであります。  
また——つきましては

各地区に散在してあります淋病舎は電話もあり

ませんし、かつまた医者なんか分布状況から行きまして  
も例えは——  
の場合には——

医者も進歩している今日、仮に例を挙げますと、

非常に不便を感じました仮に連絡がついたとしても相当の時間を要するということになりますと、

— そういう見地から

考えまゝで私厚生委員長が立場からなるべくならば中心地へ持ってきて、それで一括して市が協力を得て完備した治療器具を建物

— いたたま

たいという考えから、こゝに賛成いたうであります。

ただ先ほど

— 救急車の問題、救急車は御

承知のとおり、現在ありボロクサの三輪車である。

— 危険もあるうであります。こゝを一日

も早く本當の患者用に適合する車を購入していただいて

かつ現在う

解決していただいて

そうしてこの議案に賛成するであります。どうぞよろしく  
・十二番(吉田勇治郎君)本議案に對しまして毛頭、廃止、それも  
ゝに及対するものではないます。一応いふとつ

— お願ひいたしまして賛成したいと思ひます。そう  
点はいままで申し上げた通りであります。が、まず、へき地  
とくに西岬のようなあつたへき地に発生した場合もま  
ず患者を受け入れ体制を完全にしていただくことをま  
ずもつて、要望いたします。ととも、この廃止後——

— 適切に —

いただくことを強く要望いたします。で、本案に賛成いたし  
ます。

・議長(石井潔君)他に御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は、原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて日程第六議案第四十三号を上程いたします。

（書記朗読）

税務一課長（黒瀬芳雄君）四十三号について申し上げます。国税または地方税について課税標準を算出する場合、または税額を算出する場合におきまして、国庫端数計算法によりますと、課税標準は百円未満のものは切り捨てる。税額においては十円未満があるときは、切り捨てるという計算法で行きますと、そういうことになっておりますが、ただし施行令について市町村で

いうものでございまして

固定資産税も都市計画税も人頭切り

捨てになりますのを指定しまして、議会に指定しまして、た  
のにおきまして、端数までも計算、できる、徴収もできる  
と、こういうふうに改めて、いたゞきたいと、なお三十年の条  
二十二号は、固定資産税と市民税が、――なつて  
おりまして、市民税につきましては、現在、ところ、税  
法によつて、県民税と市民税は、合せて同一税とみなす  
と、こういう条項がありますために、県民税の方がまだ  
県の方で、条例が設定になつておりませんために、市だけ  
で、市民税を指定しても、該當せず、――を受けないと  
いう、うな現状にありますので、とりあえず、固定資産  
税と都市計画税を指定しまして、市民税は、そのまゝ、  
抜きまして、県民税の方で、県の条例が定まると同時に  
市民税も指定したいと、こういうふうを考えております  
ので、御承知、おき願ひします。

議長（石井潔君）本案に対して御質疑はございませんか。

（「異議なし」「原案賛成」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原案通り決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）——ばらく休憩いたします。なお申し上げます。一時二十分再開ということにいたしまして、その間昼食を召し上がっていただきたいと思います。

議長（石井潔君）午後より出席議員数三十二名、休憩前に引き続いて会議を開きます。

議長（石井潔君）日程第七議案第四十四号を上程いたします。なお、本議案の中には、小谷議員君と私石井潔の両名



が入っておりますが、このように議員数人が議案中にある場合には、各一名ずつ審議し、除席を必要ということになっておりますので、本議案をまず、小谷議員君を、つぎに石井を、つぎに他方全員について同意するかどうかという順序に区別して審議いたしますことになりますのでよろしく願います。

(書記朗読)

。保険課長(唐沢貞太郎君)国民健康保険運営協議会がございまして、その任期が来月9十二日で満了になりますので、その全員をつぎのように選任したいと思います。まず、議決を求めるのでございます。なお、この選考方法につきましては、被保険者代表および広域代表につきましても、なるべく地域的なものを加味して、かならず、どこか地区にも一人づつおるように加味した

でございます。それから医師または歯科医師代表等につきまゝては医師会等々意見も含みまゝて以上選定した次第でございます。よろしく御審議うほどをお願い申し上げます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）お諮りいたします。まず、先ほど申し上げましたとおり、小谷無違議員の選任からお諮りいたしたいと思ひます。

么城代表といたしまして、小谷無違君を委員に選すること、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よつて小谷君の場合決定いたしました。続いて私の場合でございますが、一ぱらく審議中、副議長に代ります。

で御了承願います。

副議長(小谷無違君)そして石井深君の選任につき

二十番(鈴木市蔵君) 医師または歯科医師

どういふわけだ

そゝ占  
ちよつと伺いたい。

・保険課長（唐沢貞太郎君）  
二小は医師会と

意見も徴しまして、そふによつた代表として、ここにお願ひ――

副議長（小右無偉君）

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長（小右無偉君）異議ないものと認めます。

十一番（伊勢仙之助君）被保険者の代表の選考の方法です  
が、課長、御説明では、地域というのを、一応考慮

一たと、こういうようであります。が、地味ばかりでなく、掛金の率とか、あるいはつきり申し上げますと、――

そういう、それぞの掛金の料率を――

こういうものは全然加味されていかいか、その点について、保険課長（唐沢貞太郎君）そういう点につきまゝでは加味してありませんでした。

十一番（伊勢仙之助君）そうしますと大体において掛金の高い人というふうに解してよろしいでございましょうか。

保険課長（伊勢仙之助君）高いとか、低いとか、いう意味じゃございまして、全然そういうことにつきまゝでは考えておらなかつたわけでございします。

十一番（伊勢仙之助君）原則的に選考の基準になつてここに現れてきた人たちが結果的には、そういうふうになつたので

はないかと——私に聞こうとするところは、いわゆる財産であるとか、収入が多い人々のみが偶然にも被保険者代表として選考されてしまったんではないかというふうなところに質問の要点があるんですが、結果的にはそうなったんでしようかと聞いてるわけです。

・保険課長（唐沢貞太郎君）結果的には、やはりある程度名前が知れております。方を選考したために、そういう結果になったというよりは、いえませんが、かならずしも高額所得者という意味ではないかと思われます。

・二十番（鈴木市蔵君）この被保険者や代表という問題に對して、ちやうど伺いますが、石井氏の方は医師会や——

・保険課長（唐沢貞太郎君）被保険者や代表は、私の方で選考しましたのでございます。

二十番(鈴木市蔵君) 財産があり、有名な人ばかり――

――加味して推薦していただくわけにはいかなかったんです。が、その点、ちよつと。

・保険課長(唐沢貞太郎君) 最初から、そういうことをつい考えに入れませんでしたために、結果的には、そういうことが出てきま――たことを誠に申しわけないと思っておりますが、このほゝとつ、そういうことはなるべく気をつけ、對して、あらゆる階層からというふうにいたしたいと思っております。

・議長(石井潔君) お諮りいたします。

十一番(伊勢仙之助君) 私は――こゝ選任を決定す

るにつきま――て、一番懸念することは、こゝ運営委員会は、公平に運営さしめば問題はなんでしょうが、たまたま、保険料率とか、そういうものを算定する場合に、掛金をどうしようにするか、という場合に、一方的に片寄るような意見

がこんご出てきて一部の人々のみが利益を得て、一部階級が損をするというような形が打ち出さるような心配があるんですが、そういうような点について全然ありません。ですから、もし、その点がないとすれば私は原案に賛成いたします。

・保険課長（唐沢貞太郎君）決して伊勢議員さんのおっしゃるような懸念はないと思えますので、そういう点につきましても私はとくと注音したいと思います。

・議長（石井潔君）お諮りいたします。他に御異議はございませんか。

・七番（ ）  
国保の運営委員でもって診療所の運営委員会をかわるということをお願いいたしますが、こういうことはどうですか。

・保険課長（唐沢貞太郎君）この国民健康保険運営協議会

は法律で定めるところによりまして、選任されるものでございまして、このなかに豊房診療所等、運営協議会も含めて、運動をするというふうに解釈しております。

七番

（それでは）

人たちのなかに

おいてという――全部が豊房診療所の運営委員になるというわけですか。

保険課長（唐沢貞太郎君）お答えいたします。豊房診療所の運営委員会は法律の規定に基かないものでございまして、このなかの運営委員会でもって同じく豊房診療所のこととやるし、そのほかのこととやるというふうに行いたいと思っております。

二十八番（嶋貴壮作君）いま問題に関連するんですが、豊房診療所の協議会というものはあったんですが、いつの間にか廃止されてしまっているんですが、あれはどういう



基礎によつてつくうか、という基礎によつて廃止せよとか、  
この点をはっきりさせていただきたいと思ひます。

保険課長(唐沢貞太郎君) 答え申し上げます。実はどうい  
う基礎によつてつくうかということは、私不勉強でわから  
なかつたんでございますが、そう任期满了は、この年、この  
運営委員会より任期满了と同じく七月の十二日で満  
了になるのでございます。

三十八番(嶋貫杜作君) 満了になるのはわかつておりますが、この  
前廃止したというふうななにかあつたんで、そう納得なしで  
私はさうまで黙つておつたんですが、唯が廃止してどう  
いうふうになつたんだか、それをはっきりしていただきたい。  
保険課長(唐沢貞太郎君) 私は廃止したというふうなお  
話は聞いていゝなかつたんでございしますが、当然、運営  
委員会、豊房より運営協議会ですが、それは七月の

十二日で自然的に解消一まゝで、こゝ国民健康保険協議会の中でもってそれを審議する方が妥当であるというふうな解釈はもっておりまゐた。

二十八番(鳴貫壮作君)　そうであるならば、豊房診療所の運営協議会というものを設けられていたうだから、これを廃止する手続きをとらなければ人を愚弄したことになるやしませんか。委員として、選任しておいて、そうして任期がきたから、廃止になるということではあまりにも人を愚弄したやり方に考えられますが、

・保険課長(唐沢貞太郎君)

・二十八番(鳴貫壮作君)

・議長(石井潔君)　他に御異議はございせんか。

・五番(萩生田七郎君)

あるいはまた、従来、豊房診療所  
の運営協議会というものが、このメンバーの中から互選  
されて

・保険課長（唐沢貞太郎君）お答え申し上げます。

この運営協議会は国民健康保険事業の運営に関  
する事項について全部協議するものでございまして、  
当然豊房診療所等もやはりこのなかで国民健康  
保険事業の中に入るものと思われるので、当然このメ  
ンバーをもちまして全員で豊房診療所もござい  
て審議したいというふうに考えております。

・三番（鈴木市蔵君）

過去何年間というものは

私はいまだ聞いたことがないんですが、こんどそういう

ことうない

二十一番

(議案につきまゝでは)

ただし先ほど来問題になつておりますところ豊房  
診療所の運営委員会

それから

選任をいたすれば

従いまゝで

いま聞いてみますと豊房診療所に関する点につ  
きまゝでは有名無実かむしろこんごは

協議会

当然国民健康保険の運営  
かような答弁でありますか

私はこの選任

につきまゝで議

会を議決を

議会軽視の点が伺われるのであります。この点につきまして、  
てう明確に御答弁をお願いいたします。

市長（田村利男君） 去年もたしかいま時分だったと申します。が、運営委員会が任期は二年で一年おきに、  
ちうど参議院が六年おき、三年ごとに任期がある。  
こういうふうな任期が——去年任期がきたときに全  
員豊房診療所の委員にもたしか、山口議員も御  
同席になって集まっていたので、当時健康保険課  
長は、在来あつた豊房診療所、運営委員会という  
ものは法に基いたものでなくて便宜的に村時代につ  
くったものであるし、また果う指示があつて、そういうもの  
はない方がいいという指示があるうで健康保険、運営  
委員会一本で、行きたいということを課長からい  
って参りまして、当時去年のたしかいま時分、七月

十三日、任期切替え時分、前後に委員会に集まっていた。それで、その後処置を相談したわけであり、当時集まりました委員さんは全部、そういうふうな事情なら、古い任期の人にはすでに去年の七月十三日に満期にかる人は、もう再任してもらいたくない。ことし七月十三日の任期の人だけ残って、結局半数欠員で運営がうまく行かないかも知れないけれども、いつまで経っても、イタチごっこで——任命しないで一年間

空席のままにして、来年の七月になれば全員欠員になるから、その後方法をとることが一番望ましいということに結論が達しまして、当時、豊寿診療所委員、出席した人もあると思います。なるべく、当時、健康保険運営委員とも相談の上、ことし七月十三日をもち、新しい組織、たしか議会にも五人、五人、五人、比を

もつて出すという条例を出したと思うんですが、あうとき  
でございます。そういうことで議会で議決になりまし  
たので、今日まで新しい委員の任命を待ちまして、本日  
新しい構想のもとに果て保険課を示す健康保険  
運営委員会より十五名の任命をお願いしようといふこ  
うわけでござります。

ニ十八番（鴻貴壮作君）ただいま、市長さんから説明があり  
ました。私はこと、公職に関することは、――

――いるんでござりますが、そういう――

さらにないであります。私もそう委員になっており  
ますが、先だって金千円届いていた。それも不可能だ  
と思つて考へてゐるんですが、手当として届いてきた  
ぞういふうなわけであり、協議会というものが、

にされてゐるような気がして、機会があるだろうと思つて

今日まで黙ってきただけですが、いま保険課長の知らないことだと、私考えるから途中で打ち切ったんであります。市長さんが弁明があったから申し上げるのがあります。もう少し事情をはつきりさせていただけきたいと思ひます。

市長（田村利男君）私うはちつとうろ覚えで当時、保険課長か——ちつと休憩願ひます。

議長（石井潔君）——ばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）他に本案に対して御質疑ございせんか。市長（田村利男君）本来ならば本議案の説明前に市長からあり前豊房診療所運営委員会が法にのつとらないものであるんで、こゝ際、廃止——まゝで改めて本日、十五



名を選任したいという言葉を申し上げるべきだったと思ひます、改めて――

議長（石井深君）御異議ございせんか。

二十八番（鳴貫壮作君）なつと伺います。市長が議会で

以上、その前提条件として、わかわかの方で――

なくてはなるまいと思ひます。わかわか議員として――

――なるかも知れませんが、任命されたものだと考へておる。

十一番（伊勢仙之助君）鳴貫議員のいわくるのは、ごもつともてすが、一応、これは市当局から、辞任の辞令を出していただいたら、それで済むんじゃないかと思ひます。

二十八番（鳴貫壮作君）それ以前に、私から要望しておきたいことは――

保険課長(唐沢貞太郎君) たいまう豊房診療所の  
運営協議会、来月十二日が満期でございますので、そ  
う前に市長さんと相談しまして、会議を持ちたいと思つて  
おります。

十一番(伊勢仙之助君) この運営委員会が

聞く

ところによりますと、豊房の審議会ですが、あかには二年間  
にたったいっぺんしかやっていないというふうなことを聞いており  
ますが、こんど運営委員会というものは、どういうふうな形  
で運営されるのか、それとも積極的に二月一ぺんとか、  
三月に一ぺんとかあるいは緊急な問題があったら

運営委員会を再開してやるという、こういうふう  
なことになると思いますが、それから任期の点になりますか  
任期は何年くらいであるか、運営委員会のこの現在の状況  
について保険課で考えておることをお聞かせ願いたいと

思います。

・保険課長（唐沢貞太郎君）任期が満了でございますが、この議決を得ましてからお集まり願ひまゝで抽選かなんかでもよろしうございしますが、二年委員と一年委員を選任いたします。ですからこんごそは交代、交代になりまして結局二年というふうになるわけでございします。選任委員会が活動でございしますが、これは他市が様子を見ましてもいずれも活発的に動いておりますのでぜひ二月に一回ないし、三月に一回というふうな会議をもちまゝて全面的に御協力を願ひたいというふうなことを考えております。

・議長（石井潔君）他に御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって議案第

四十四号は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第八議案第四十五号を上程いたします。

（書記朗読）

総務課長（完戸貴君）館山市高等学校教育施設組合で建設いたしました別紙図面にございます。斜線が個所でございますが、こゝ――

小使室、そ

の他――施設ならびに埋立土地、こゝらに関する登記が一切が完了いたしましたので、館山高等学校の用にあつてゐるために市へこゝを寄付いたしたいという申し込みが参りましたので、こゝを受け入れます。実業教育の実を挙げようとするものでございます。

議長（石井潔君）本案に対して御質疑ございませうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。よって本案は  
原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君)つづいて日程第九議案第四十二号を上程い  
たします。

(書記朗読)

税務一課長(黒瀬芳雄君)議案第四十二号の条件の説明に  
入ります。前に都市計画税の決定になりましたこと  
をちよつと申し上げておきます。

三十一年度より四月二十四日の税法の改正によりまして、  
地方税法の一部改正と並び、県市町村の目的税  
が定められたなかで、市町村におきまして、固定資産の  
評価額に対して都市計画税に基いた都市計画事  
業に対する費用に充てるために都市計画税を賦課

徴収することができると、こういう税法が発表になりました。ために、本市といたしましては、御承知のように財政方面の赤字団体にあるために、一方都市計画事業に對しましては、起債が打切られると同時に都市計画税をとるようにと、こういう中央から指示があります。ために、どうしても、財政を建てるためには、都市計画税を賦課徴収しなければ予算上の計画が立たないようになつたために、一応都市計画税を賦課徴収する。一かーながら、御承知のように、固定資産も最低の標準の税率であります。で、できるだけ、最低をとります。で、税法に定められておきますのは、百分の二・二でありますけれども、当市といたしましては、年度中途でもありますし、なおなるべく税率は低い方にもって行きたいと、こういう考えで百分の二まではとらないで

かなり都市計画事業の費用に間に合う程度で百分  
〇・一いわゆる千分の一の率で賦課したいと。こういうふうな  
考えで提案した次でございします。

条例の説明でございしますが、第一条の都市計画税を課  
することができる。それから第二は賦課徴収については、  
市税条例に定められたほかは定められたところによると、  
なお納税義務者は区域内、いわゆる館山市は全市  
が都市計画区域内にありますので、その全市の区域  
内に所在する土地および家屋に対して評価格を標  
準として所有者に課する。それから二項の評価格とは、  
市税条例に規定してあります土地または家屋から  
固定資産税の課税標準となった評価格をいう  
のであります。それから第三条は、税率でたゞいま  
申し上げました百分の〇・一、賦課期日はこれは当該年

度々一月一日が賦課期日現在となりますが、これは固定  
 資産税と同じものです。それから第五項の  
 納期でございますが、これは今年度は中途でありますた  
 めに特例になって、この固定資産税の納期と同時に徴  
 収することができ<sup>はせ</sup>たために第六条の九月と十一月と二回  
 にわたって納期を設けるように条例を決めた次第でこ  
 ございます。第七条はただいま申し上げましたように固定  
 資産税と両方合わせて賦課徴収することができないと  
 認めた場合はこの限りでない。この納期の問題でござい  
 ます。それから第八条は徴税令書の様式でございます。  
 これは別に定めます。これは三十一年度分より都市計画税  
 から適用して九月と十一月に三十一年度に限っては納  
 期を定めるとこういう次序でございします。よろしくご  
 うぞ。



二十八番(嶋貫壮作君) 税務課長にお尋ねします。

こゝ都市計画税を課するということは任意規定であり  
ますか、それとも  
規定でありますか。

税務一課長(黒瀬芳雄君) こゝは先ほどちよつと申し上げまし  
たが、課することができると任意でございます。

二十八番(嶋貫壮作君) そうしますと、こゝはいつ公布になり  
ますか。

税務一課長(黒瀬芳雄君) 三十二年四月二十四日でござります。  
二十八番(嶋貫壮作君) こゝちへ届いたのはいつごろですか。

税務一課長(黒瀬芳雄君) 正式に届きまゐたのはこゝは法律  
の発布月日です。四月の二十五、六日ごろでござります。

二十八番(嶋貫壮作君) 市長にただちに交付なさいますか。  
税務一課長(黒瀬芳雄君) そうでござります。こゝは県の方

から県と、それから関東都市税務協議会や事務局

から原案を送りまして

等も一緒につきまゝいた

が四月二十五日

二十八番(鳩貫社作君)それから市長さんにお伺いしますが、  
 この都市計画税ということは、市長さんはいつごろお知  
 りになったんでしょうか。こういうことをお尋ねするわけは、  
 この財政再建整備計画を樹てるについて、都市計画  
 税を見込んでおらなかつたように、私は現在では見込んで  
 ありますが、見込んでお出になつたようなときに、財政再  
 建計画の出発点があつたのではないかと、それは市長  
 さんから、私う記憶では、都市計画税ということについて、  
 なにもなかつた。それで仮にそれたものを都市計画税と  
 るということになると、それないからとるということになり  
 ます。その間に矛盾を感じるものであります。従いまゝて  
 この問題を課する以上、市長さんから、ひと言ほーいと

思っておつたんであります。そういう意味でお尋ねする  
もんであります。

市長(田村利男君) 第一回の協議会へかけまゝで、そのときに  
いわゆる百分五というふうなことでお叱りを受けたん  
であります。が、あゝとき、目的税として、――

二十八番(嶋貫杜作君) それ以前というのは、いま都市計画  
税という計画をなしてありますが、計画の出版の当初  
において、――

市長(田村利男君) 目的税として、人ロハに入つてある最初に

二十八番(嶋貫杜作君) お話がなかつたと思つてです。

仮に都市計画税がなくても、財政再建整備ができるも  
うを都市計画税をかけるということになると、館山市と

いうものはいつも税金を払うということになるんで、それ  
 でお伺いするんです。

市長（田村利男君）最初に都市計画税というものは  
 書いてありませんけれども、三百十三万五千円というもので  
 計画に入れてあったんです。

三十一番（ ）こゝ都市計画税をやるには都市計

画——の設定が必要であるかと考えますが、そう決  
 定は現在できておりませんが、こんごつくて行くものと  
 あるか、もしおつくりになければどのような方法で決定し  
 行くか、なお都市計画税を納めた場合に——

——なければならぬんでありますが、それに対する  
 国庫補助あるいはなんかいさういった形、補助がどう程度  
 にあるかということも、概略御説明願いたいと思います。

税務一課長（黒瀬芳雄君）第一問については、都市計画区域は、

現在館山市全区域になっております。それから、なお事業等につきましても、ちっと私の方を離れまして、建設課へくるために建設課長からお答え願います。

・建設課長

（工事関係のことについてお答えいたします。まず、都市計画税区域は、館山市全区域になっておりますので、この工事を起す場合は、建設大臣の承認を得ましたものについては、工事をするわけです。それから工事を起した場合には、三分の一の国庫の負担がいただけです。（「三分の一ですか」と呼ぶ者あり）三分の一が都市計画税でやっているわけです。そうほかに都市計画税が残った場合には、市の単独事業として、都市計画の仕事をやっているわけですから、やらないことになっています。）

・三十一番

（現在本計画に基づいて工事をしている箇所がありますか。なお将来あるべき目的地がある

かないかについて、おわかりになりまうたらう……

( ) 現在やっておりますところ、海岸の重要幹線道路が、あか

ります。あか、都市計画の事業としてやっております。

そのほかには、中央水路は完成いたしますし、そのほかの

計画は、こんど都市計画税によりまして、建設大臣の

承認を得たものについて、工事をやることになっております。

議長(石井潔君)他に御質疑ございせんか。

二十四番

( ) 都市計画税を農村地域、観点から

みますというところ、わいわい、ただ税金を納めるだけで、大体

旧都市の道をよくし、我々は市税を払うだけだと思ひ

ます。市長さんは、都市事業をどんな構想でやる

とお考えになっておりますか。それによって賛成いたし

それによって絶対反対をいたしたいと思ひます。

市長(田村利男君) 協田議員は

考えてお出でようでございますが、  
館野地域は村ではありませんので、館山市でござい  
ますので、将来立派な道路、いろいろまた館野地区をもつ  
とはつきりいえば、房南地区を中心とした公園設定の  
問題もあがっておりますので、決いて館野地区、九重地  
区、富崎地区を

もつてはございせん。

二十四番

ーからばこー

三十一番

こー都市計画税

希望者がなくて、あるいは、その徴税率が非常に悪いと

あるいは事実上、都市計画税を賦課したけれども、その  
だけの効果がないうという。—— とう点に  
ついて当局の御見解をお伺いいたします。

（現在、状況からいまして、課税標  
準も十分の一だし、従って調定額も低いし、現在の  
状況で行きまゝなら現年度において、八十五ないし九十  
そういふ収入見込みが一応計算できますので、徴税  
面においては、現在ばかり市税と遜色ないと思います。  
以上です。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は  
原案通り決定いたします。

十一番

（先ほど決定いたしました。）



の問題について——移転的経費その他議案を  
審議する上に重要な事項をちまつと落しまゝたゞで、質  
問だけを—たいと思いますすが、よろしゅうございますか。

議長（石井潔君）十一番議員さんに申し上げます。ちまつと  
いま質問を許可することはまずいと思ひますが、

十一番（ ）のちほど移転的経費の問題が出てき  
たときにいたします。

議長（石井潔君）——ばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）議案第四十七号、第四十八号を一括上程い  
たします。

（書記朗読）

（ ）ただいま委員長報告がございまして

とあり、当市におきましては、財政再建計画を作成いたしまし、二十日、日、に果へ持ち、行つたので、ございませうが、いろいろ――

――点につきまして、指摘がございまして、これをさらに直したならば、二十五日に果へ提出するように、こういうことでございませう、果へ趣旨に添うべく訂正いたして、二十五日に果へさらに提出いたしたものでございませう。――

――事項とさらに若干の点が改めて指示をされたのでございませう。第一の点は、交付税は、従来特別交付金に見込みを加え、計画しろといつており、たが、今回は特別交付金、計画に見込んで計画に如えろ、ということとでございませう。――

――徴税率を全

国平均の八・三パーセントを上回る八四パーセントまで、館山市は上げろ、ということとでございまして、たが、こういうわけと

三十二年では徴収額はグッと上がってくるが、大体三十二年で徴収して滞納繰越分等が少なくなるので三十二年では、その収入額が減ってくるので、そうすると、自然徴収というものが、ジグザグ形になって、自治庁ではこういう結果になることを嫌うので、三十二年より三十二年の方が徴収率が上昇するように計画しろというのでございます。それから第三番目は前には再建計画を予算と一致するようにつくろ、ということでもございまして、たが、かならずしも一致しなくともよい。年度中に一致すればよいというふうな理由でございまして、徴収を年々上昇させるということは、数字的に比較的簡単でございしますが、實際の問題になりますと、相当無理な点も矛盾な点もある程度、理論的には、こうしろということでもありまして、それによって計画し直しまして、この結果をみたうでございします。

まず、最初の一枚目でございますが、この財政再建計画書については、第一に財政再建の基準方針といたしまして、再建期間と基本方針を實際的に述べたのでございます。

第二には、再建に必要な具体的措置として、消費的経費の節減抑制ということと、その他経費の節減とそれから税外収入の増収化等に関する事項について、具体的に述べてございます。この財政再建計画書を提出するに当りましては、これをどういうふうにして計画をするかという裏付けの資料が必要であるというので、つぎの三枚目以下でございますが、別表の普通再建年次総合計画——書をつけることになりましたので、まず第三番目から御説明をいたしたいと思っております。第三番目をお開き願いたいと思っております。

歳入のうちとまん中で昭和二十九年年度から昭和三十三年  
度までの一応財政計画が樹つてございます。二十九年  
度は合併後の決算におきまして記載したものでござ  
います。三十年度は会計閉鎖当時より決算によつて  
その實際額を計上いたしたのでございます。計画の  
重点は三十一年度でございますので、主として昭和三十  
一年度より収入について申し上げたいと存じます。ここに  
カッコで歳入としてその下に一市税とございますが、この市  
税の総額は一億二千八百四十四万七千円と計画をしてご  
ざいます。これをさらに普通年度分と財政再建のため  
の増収分に内訳で示してございます。すなわち普通  
年度分を一億二千三百四十一万一千円、再建増収分を五百  
三万六千円といたしました。

普通税は三十年度中相当に実績をあげまして七六

パーセント率で徴収をいたしたうでございます。しかし、  
全国平均が二十九年度のパーセンテージをみますと、八二・三  
パーセントであつて、これに比べますと、なお低い徴収率で  
ある。それで果し指示によりますと、これを八六パーセント  
以上を目標にしろ、ということでございます。その率  
を上昇させて、徴収額も、それによつて増加する計画を  
樹てたうでございます。

なお、三十一年度から、地方税法の一部が改正になりまして、条例によって、目的税を課することができ、この目的税は、都市計画税でございしますが、これを創設いたしまして、調定額が三百九十四万、大体八三パーセントに当る三百二十万を徴収する計画を樹てたのでございます。

この詳細な計画内容につきましては、五枚目から七枚目まで税収入計画表として添付してございますので

御覽をお願いいたしたいと存ずるうてございます。

こゝ表うなかり第一は二十九年度から三十二年度までう  
税う徴収計画、それから第二は同じく各年度う滞納整理  
計画について現わしたものでございます。

第六から第七枚目はとくに三十一年度と二年度う税う収入状  
況について調定額と収入額と徴収率について――

にしたものでございます。第三枚目に戻っていただきます。

第三枚目う第二といたしまして、地方交付税がございます。

これは――改定等によりまして三十一年度

う普通交付税う終額見込みはある程度見込めると思  
ううてございます。現在う段階では自治庁う指導  
方針による慣習を用いまして計算いたしたもので  
ございまして、これに普通交付税と特別交付税がござ  
いまして普通交付税を三千五百二十五万円、それから

特別交付税を二百三十三万九千円といたしまして、交付  
税の総額では三千七百五十八万九千円と計画いたした  
のでございします。第三の財産収入は四百十二万六千円と  
計算してございしますが、このうち競輪収入を三百万  
円と見込んでございします。なお、競輪収入は四日制で  
ございまして、六日制にふるえまして、最終的に  
はもつと増加することをおもうのでございしますが、収入――  
――一応三百万円をもって計画いたしたのでございします。  
第四の使用料・手数料は、確実に見込み得る限度にお  
きまして、当初予算に計上いたしてございします。で、  
その数字をもって一千二百四十九万九千円を計画いた  
したのでございします。

三十年度の決算見込額よりも増加しておりますのは、  
高等学校の授業料等の値上げによるものが主なる



原因となっております。それから第五の國庫支出金につ  
きまゝでは――補助金を伴うものにつ

いて検討を加えまして、各事業別補助金より額を合算  
額として事業費に対する各種補助金より見込額で  
ありまして、これを三千四百七十九万二千円と計画いた  
たうてございます。

第六の県支出金は國庫支出金と同様の見込に立ちま  
して、二百四十一万九千円と計画をいたしたうてござい  
ます。第七番目の寄付金でございますが、これは事業費より  
――入るものがありましては従来――計算い

たしまして、地元より寄付金とその他確実に収入し得  
る一般寄付金等を計上することといたしまして、六百  
九十八万九千円と計算をいたしたうてございます。

第十の雑収入につきまゝでは使用料および手数料と

同じく市税の延滞金とかその他につきまゝて当初予算にすでに計上してございますので、その額をもって六百四十七万二千円と計画いたしたのでございます。

第十一の地方債につきまゝては、本年度の地方債計画を地方財政再建計画指導方針と重要な関連を持つものでございまして、現在段階におきまして、このはっきりした見込額ということとは推定することは困難でございしますが、大体県の指示によりまして一番はじめは九百万円と計画いたしたのでございますが、その後大体四百百万程度、か館山市は見込められないかということではございまして、この額を四百百万に縮小して計画いたしたのでございます。大体以上のように計画をいろいろ繰り合わせまして、昭和三十一年度の歳入合計は二億五千三百四十八万六千円となりますが、この中には那古小

学校あるいは一中の建築起債として見込んでございますが、これはまったくの——二百八十万分を落として歳入を、このように決めたのでございます。

つぎに三十二年度は県の指示に基きまして大体三十一年度よりも市税の徴収額が上がるように計画しようということでございますので、歳入額合計では二億四千二百十八万五千円と定めてございます。目的税で五十二万増加しておりますのは、三十一年度で大体——パーセントくらい未納となるというので、残ったものやなかである程度入るといいうで、その滞納額や収入をみたわけでございます。

なお、三十三年度につきましても、赤字解消年度の計画書に記載して、そうしてこの財政計画の——をみるようにしたいというので、大体三十二年度と横ばいを下回る程度で計画いたしておりますが、実際に近

い正確な計画というものは、まだ三年先でございまして、非常にこれは、実際には、そうと云にならなければ、なお正しい計画は、できないものと思つてございします。つぎに第四番目をお聞きになつて、いただきたいと思ひます。第四番目の表は、歳出に關するものでございします。歳入と同じく二十九年度と三十年度は、各年度の決算によつて計上をいたしたものでございします。三十年度は、年度内での計画といたしまして、最初赤字が一千八百万円程度残るではないかと考えておつたのでございしますが、その後非常に税収が伸びたので、歳出の合計が二億四千三百七十七万九千円となつて、赤字が一千四百十五万三千円減つて参つたのでございします。

三十一年度の歳出合計は、二億五千三百四十八万六千円と計画をいたしたものでございします。第一の消費的経費

というところでございますが、これをさらに人件費と二で物件費、三でその他に区別して、その合計を一億六千四百七十九万八千円に計画をいたしたわけでございます。

それから第二の投資的経費は、普通建設事業費と、それから、二で災害復旧事業費と、それから、四で失業対策事業費に区別して、その合計を五千五百八十九万一千円に計画をいたしてございます。第三の交際費につきましても、交際費が二つになっておりますが、当市は総務課で九百十四万四千円に計画してございます。

それから第四の繰出金につきましても、一千五百万円にしてございまして、第五番目の前年度繰上げ流用金を一千四百十五万三千円といたしまして、第六で赤字補てん金として、八百万円計上してございます。歳出合計を二億五千三百四十八万六千に計画をいたしたわけでございます。

一 かし、この年度中にはなお赤字が六百十五万三千円残ります。組合の未償還分がなおこの表によりまして七百七十五万九千円残るということになります。

いいかえますと、三十一年度中におきましては、組合から借りております一千万円のうち、二百二十四万一千円と二十九年度の赤字を八百万円解消するという計画でございます。歳出の計画につきましては、あくまでも赤字克服を確実に達成するという目標において、赤字を解消しながら、その反面におきましては、できる限り各種事業もやっで行こうという計画でございます。このためには、消費的経費につきましては、できる限り圧縮を加え、節減をして、それから他会計へ繰り出す額は極力減少するか、または全廃するように特別会計の運営を合理化するように努力する必要があるものでございます。

このためには、消費的経費の最高を占めます。人件費等につきまゝでは、得る限り、その増加を抑制するとともに、物件費やその他の消費的経費につきまゝでも、できる範囲内で最低限度に止めることを目標に――この計画に従い――別に資金計画というのを定めて両方から、この費用の節約ということに努力したいと思つてございます。投資的経費は、それに反しまゝで、年度ごとに上昇線をたどっております。――この――

あるいは――

等につきまゝでは、八枚目と九枚目に投資的経費の実施状況一覽表というものがございまして、御参考に御覧わかつていただきたいでございます。

また、先ほどの四枚目にかえていただきます。第三番目、公債費につきまゝでは、三十年度以降の起債の目標額において、元利金の償還額を算定――まゝで――一時借入金、利

子見込額等を加算したものを計上して九百十四万四千円と計画してございます。起債は据置き期間を過ぎて参りまして、だんだん償還期に入つて参りますので、三十三年度におきましては、八百八十七万二千円、三十三年度におきましては、九百五十五万八千円というように上昇線をとっておりまゝです。第四の繰出金は百五十万円でございますが、これは公益質屋へ五十万円、それから国庫会計へ百万円、繰出す予定のものでございます。国の方針といたしましては、特別会計はあくまでも独立会計であつて、採算の向くようにその会計を運営して行くべきであるし、とくに国庫に對しては一般会計に依存することなく、もし必要があるならば、国庫会計自身で繰り上げ流用をすべきであるというふうな見解をとつておるものでございまして、そういう關係で再建



団体は繰入金までできる限り計上を避くべきであるといっておるのでございます。しかし、当市は両会計の現状をみますと、なお育成助長しなければならぬ現況でございますので、本年はこゝ以上増さぬことによりて三十二年度以降は特別会計本来の独立採算の方法でその姿でもって行つてもういたいと考えておるのでございます。

それから第五番目、前年度繰り上げ補充金は三十一年度におきまして決算の結果一千四百十五万三千円と、三十一年度中の赤字を六百十五万三千円として会計の——六万九千円の黒字が生じるように計画を樹つてございます。

三十三年度はまったく黒字財政といつてよろしいので、千円残といふ計画をいたしてよろしいのでございます。

第六、赤字補てん金でございますが、こゝは三十一年度

て八百万円、それから三十二年度で六百十五万三千円を計画してございます。三十二年度で完全に黒字財政に立直すような計画でございます。最後に第十枚目から十四枚目にわたります。三十一年度、寄付金等の支出計画について申し上げます。

(議案第四十八号 昭和三十一年度、

館山市歳入歳出追加更正予算、それから歳出から御説明申し上げます。歳出の中の人件費について、私より御説明申し上げます。人件費は市役所費、土木費、失業対策費、保健衛生費、環境衛生費、費、それから消防署費と中にありますが、これは消費防署費の司令期末手当二千円を除いたほかは全部臨時用人の期末手当でございます。合計いたしまして臨時用人の期末手当は四万三千三百三十七円、人員は二十七人分

計上しております。わいわい職員は六月十五日現在に在職  
しているものは毎年大月に期末手当をいただくんですが、い  
ますが、それは当初予算においてすでに予算化しております  
んですが、臨時用人の方は全然当初予算に計上しておりませ  
んでしたので、こつたび支給いたしたく計上いたしたのでござ  
います。その割合は在職期間一年以上のものには、給料  
の九日分、六カ月以上一年未満の在職しているものに対しま  
ては、七日分、三カ月以上六カ月未満のものに対しては、日  
日給の五日分、一年以上三カ月未満のものに対しては、日  
給の三日分を支給したいと思ひまして、予算総額四万二千  
三百三十七円を計上いたした次第でございます。よろしく  
お願いいたします。

(つぎは議会費につきまして御説明申  
し上げます。議会費の三十二節の負担金は六万八千

用でございます。これは当初移転的経費として計上する予定りものでございまして、この額はそれほど納付する分でございしますので省略をいたします。

それから市役所費におきまして、監査費、戸籍事務費等にございますも同様でございます。十項の営繕費で庁舎修理用資材費として五、二千円計上いたしまして、今回分館を設けることになりまして、この自転車置場の木材、トタン材料その他でございます。

それから二十二節の委託料、三十二節の負担金等につきましては、やはり移転的経費からここに組み替えたものでございまして、第三款の消防費は四十万八千円でございす。このうち第二項の消防団費に三十万八千円として

委託金というのがございす。これは消防団の統合改変に当りまして、公設消防から自警団

消防になりまゐた団体がございまして、こゝらう  
によつて手引カソリンポンプに對しては、一台一万円、小型  
動力ポンプに對しては、一台七千円、——ポンプについては、一台  
五千円、補助金を出すというので、現在自警団になつて  
おりますが、こゝが移轉的経費の關係で委託金と  
組み替えまして支出したいと思つてございます。  
手引が三台で三万円、小型が四台で二万八千円、——が  
三十台十五万、合計二十万八千円になります。

(第四款 土木費について御説明申上  
げます。第一目、維持修繕費におきまして、修繕料八  
千四百円計上いたしまして、こゝは橋梁修繕料とい  
つて、七十万円、道路修繕料といつて、十四万  
二千四百円は、農業補助金でございます。橋梁が七十万  
につきましては、今月十九日に、館山——組合の自動車

が氷セトンを積んで通行中

いたりまして三本を欠損し大破いたしました。かかる事態をいふ起りましてたことは誠に申しわけなく深くおわび申し上げる次第でございます。現況はほとんどは

ります関係上、木橋については栝段の注意を払い、適切な処置をとり、こんごかかる事態をいふよう注意いたしたいと存じます。こんご不良橋梁の補修にとくに専念をいたしたいと存じます。改築費工事請負

費五十万月は県道より西岬実瑞の南

県道を改修することになっております。これは県で約六百メートルの区間をやります。あとが残りました三百メートルは、鉄道より補助金を市で受け入れたしまして、市が県に代りましてゐるということになります。

こゝは、鉄道から果に寄付金を受け入れたしましても、  
實際の工事費を増額できないんでありまして、市で受  
け入れた場合は、寄付金全額が工事費となつて、工事が  
非常に早く完成する、と、こういう意味合ひにおきまして、

鉄道の方から五十万円、市が受け入れた、その五十万  
円で市が果に代つて工事を着工いたしまし、  
改修が今年で全部終了いたすことになつております。

負担金七十五万円、こゝは、果に寄付金を更正いたした  
あります。こゝも移転的経費として組み替えました。

河川護岸費—— 原材料費におきまして二十

万、こゝは、さん橋のけい船—— その他河川等におき  
まする維持修繕費に充てたいと存じます。二目

改築費、こゝは、船形漁港の修築費のうち、国庫

負担率が—— になりまして、関係上、市の負担とい

たします。金額が減つて参りました。二百三十五万

つぎに審時

負担金二十万円でございすが、これは相模港におきま  
して防波提り。これは災害復

旧工事とからみ合わせまして防波提五十五メートルや

二十八メートル。工費は四十万円程度かかり

まして負担金二分の一二十万円を計上いたしました。

水道費は七千五百円。水質検査委託料。これは移転的経

費から組み替へました。調査費同じく食糧費委託料

負担金補助金全部移転的経費から組み替へた

ものでございます。つぎに都市計画の六百二十一万一千

百円、これは当初予算より、百三十万円の増加となつて

おりますが、本年度六百万、工費といたしまして決定

いたしました。この工事の性質は臨時就労対策事業



でございまして失業者を使うということになって参りましたので次ページの失業対策事業費の方から人夫と重要幹線道路へ流用いたします関係上失業対策事業費が減りまして重要幹線道路がふえた。こういう結果になっております。以上失業対策事業の方は当初一日三十人、失業者を救済するという目的でございまして、臨時就労対策費のすなわち重要幹線道路が確定いたしますので、こんご一日二十人の就労となっております。以上簡明であります。――

（六）六目の学校教育費のうち、六万円の追加でございます。これは、研究学校補助金、教科研究補助金等を組み替へたものでございます。小学校費におきまして、百万四千三百五十六万円の追加でございますが、雑手当四千三百五十六万円は、学校給食婦人の期末手当でございます。工事請負費二万四千六百円、北条小学校気象観測塔建設工事費でございますが、気象観測用の施設をいたというので、これは——更正いたしまして、この施設をいたというのでございます。

営繕費で工事請負費百万円、北条小学校講堂修繕工事を計画したものであります。これは、同校期成会から受け入れ、一百万円寄付金百万円でとりあえず、その工事をやろうというものでございます。公民館費で三万一千九百六十円の追加でございますが、これは、各種公民館で

開催いたします各種講座、講演会等を開催に要します。以前は移転的経費に含んでおりましたが、全部公民館自体がなるように組み替えをいたしております。

青年学級費におきまして、一万九千四百二十五円を追加でございますが、これは豊房青年学級に常勤しております講師の期末手当として計上いたしました。図書館費で三千九百四十八円でございますが、これは、図書館の臨時用人の期末手当と備品費から一万五千円を更正し、さらに営繕費の修繕料より一万円を更正し、工事請負費二万五千円を計上し、まして、図書館の事務室を増築しようとするものでございます。それから、負担金補助および交付金二千四百円は、図書館協会へ負担金でござい、社会教育費で三十七万六千円を追加でございますが、これは全部、三十年度で移転的経費として計上したものを組

みかえーたもってございます。主なるものは文化祭、夏季  
季大学成人学級、各種団体と共催行事、そういうよう  
なものでござります。体育費で二十万四千円が  
追加でござりますが、これはやはり体育協会へ補助  
金を市自体がやるために組み替えいたしまして、額でござ  
います。以上です。

（つづきまして）八款、社会および労働  
施設費について御説明申し上げます。福祉事務所  
関係としては今回八万五千九百三十円、追加でございます。  
そのうち六項、福祉事務所費として二万二千九百三  
十円、これは――追加計上額でございまして、これは  
生活保護法、事務、施行に伴います国、補助金が  
今回の示額が参りまして二万二千九百三十円だけ増額  
をします。こういうことになりました関係上、これを支出

している。こういう計画で各原動機付き自転車、燃料、修繕料として三万一千円を計上いたしました。二万二千九百円でありますので、その差額を旅費から更正をいたしました。七項の福祉事業諸費として六万三千円を計上いたしました。これは浮浪者、一時保護として大体一万二千円、これは長期にわたる市内の浮浪者——なものがございますけれども、たまたま列車中金をすうめたとかあるいは金を落としたとか、こういうような一時的な浮浪者が参りまして、これについては法的な支出がございまして、団体にその事務を委託して援助している。こういうことで、一万五千円を計上してございます。なお、主なものは身体障害者に対する——訓練の費用、これが二人分で年間五千円、それから身体障害者に対する手帳交付等に伴う費用五千円等が

主なるものでございます。以上

・厚生課長（羽山房雄君）つづきまして十一項より更正援護費について御説明いたします。十七万一千四百円、追加をお願いいたしました。これはすべて負担金補助、交付金より移転的経費でございます。さらに九款保健衛生費について御説明いたします。六項よりと場費におきまして二十二節で委託料として七千四百円をお願いいたします。これは従来より委託金を組み替えたものでございます。なお、五千三百円——これも移転的経費でございます。

つぎに十一項より——におきまして二十四節の工事請負費におきまして八万円の追加をお願いいたします。これは公衆便所ブロック建、二坪の建築費でございます。つぎに十二項より衛生費におきまして二十二節委託

料四十円、こゝも移転的経費であります。以上よろしく  
お願いいたします。

(一) 款、産業経済費について御説明申  
し上げます。一項、農業委員会費、こゝは二万一千五百  
円、追加でございます。こゝは、農業委員会

——二項、農林費、こゝは百五十九万一千九十五円、追加で  
ございます。委託費で五十万四千四百四十五

円、二節、報償費、三十八万五千四百円、こゝは  
報償金が二十六万六千円、ございます。それから、共進

会、金四万一千円、協議会、  
金一萬五千三百円、なっております。五百五十

円、こゝは、共進会、協議会、運営費で  
ございます。食糧費、四千九百円、こゝは、共

進会、協議会、賄料と思ひますが、こゝは

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

一番大きな土地改良費を説明いたします。安房中央用水改良事業促進事務委託料 二十三万四千二百円、安房中央用水改良事業本審査実施設計委託料五十一万三千円、安房中央土地改良区設立事務委託料十八万六千円とになっております。それから負担金補助および交付金 百九十八万一千七百五十三円、これには郡市土地改良協会負担金が三万四千円、団体土地改良事業補助金 三十九万二千五百円、県単独土地改良事業費補助金 三十四万七千円、農業振興用開発整備事業補助金 七十七万一千五百十三円、林産資源開発整備事業費補助金 四十三万一千五百円とになっております。

・商工水産課長（吉田耕一君）産業経済費のうち、商工費を御



説明いたします。二千五百円の食糧費でございますが、こゝはいままで移転的経費でございます。たものを組み替へて食糧費として二千五百円を計上いたした次第でございます。つぎ委託料でございますが、やはり負担金補助であげておきましたものを今回委託料として組み替へるに三万円を計上いたした次第でございます。つぎに水産費でございますが、六〇雑手当でございますが船舶職員講習会講師手当でございますが、こゝも船舶職員講習会負担金として一括果の方へつて果が実施していただいておりますが、移転的経費の関係から今回市でやるという方向に持って参りまして講師の手当として七万五千円、それから船舶職員講習会の講師その他賄料として食糧費で一万円、つぎをあげまして借料および損料といたしまして

会場その他借り上げといたしまして一万五千円を計上  
いたしまして船舶職員の講習会を実施いたしたいと  
考えるものであります。なお、また元へかえりまして、  
十三節の食糧費の海週間行事も負担金を納めて  
共同で実施しておたうでございすが、今回やはり市  
でやるというふうな計画のもとにこういう仕組み替えをいたし  
まして海週間行事の賄料といたしまして一万円を  
計上しつぎの十三節の借料損料におきまして  
会場その他借上料といたしまして三万円を計上いた  
した次第でございします。二十四節の工事請負費でござ  
います。が、こゝは、

につきましては、あ

いいう追加をお願いしたいと考えるものでございまして、

こゝは、———の工事費といたしまして、お願いい

たい。こゝう考えております。以下水産費は御説明を

省かせていただきます。つぎに観光費でございますが、観光費におきまして講師報酬といったしまして、一万円を今回お願いいたします。つぎに委託料でございますがいままでもやはり負担金といったしまして支出しておったものを今回委託料といったしまして、観光と物産の房総展、それから海なし県に対する観光宣伝というふうなものを委託料といったしまして、今回計上をお願いしたいと考えるものでございます。以下負担金、補助金におきましては省略させていただきます。

(十二) 統計調査費について御説明申し上げます。雑手当り二万七千三百十円、これは四月一日実施り——調査と六月一日——調査員の手当てでございます。つぎに十一節——四万二千百円、これは——による調査でございます。これは歳入の方へ回

かう預託の費用がくることになっております。

(「了解、了解」と呼ぶ者あり)

(選挙費につきまして御説明申し上げます。主といたしまして選挙費中、参議院議員の選挙でございますが、当初予算當時——に見込んでおりましてために御承知のとおり、今回の参議院選挙は七月の八日がちょうど日曜になりますので、職員を超勤手当としまして十六万四千四百円、需用費におきまして

これは

をこしらえるために

お願いいたしております。食糧費は投票管理者ならびに投票立会人の協議会をやりたいということ、いまいとは投票当日投票かんの装置に参らねた管理者ならびに投票立会人の弁当を出したいとかように考えました。印刷製本費はこんど全国区選出議員を——

でございしますが、果で一括印刷してくれるそうでございまして、その印刷代を二十五万円見積ったのであります。以上簡  
単であります。

(十四款) 公債費は一時借入金より利子  
として八十九万円計上いたしました。これは館山高等学校  
施設組合から百万円、一時借入するものとして一千万円に  
対する八分九厘の利子でございします。

・税務一課長(黒瀬芳雄君) つぎは十五款のうち徴税費  
について申し上げます。徴税費のうち市税調査費  
で、旅費で六万円、賃金で三十六万六千六百円、これは  
御承知のように本年度が固定資産の評価を決定いた  
しまして、なお三十一年度にはそのまま据え置きと  
三十三年に改めて評価の決定になりますので、三十  
一年度二年において土地および家屋より以上調査

をいたしますために、三十一年度で旧村を対象といた  
 しまして、家屋と土地の調査をいたしまして、そのた  
 めに臨時用人の延べ二千四百四十人分の三十六万六千  
 六百円でございます。負担金および交付金では自衛  
 隊関係の負担金でございます。これは三目の徴税  
 費と同時に一万四千円でございます。よろしくどうぞ。

( ) 四項の市振興費について、御説明を  
 申し上げます。こううち三十二節に十三万七千五百円、  
 日本電信電話債引受け機関に対する利子補給交付  
 金としてございますが、これは電信電話債券を金融  
 機関が五百五十万引受けっておりますので、この二分  
 五厘に対するものでございます。つぎは七項の前年度  
 繰上流用金につきまして、当初一千八百万を予定いた  
 したのですが、実際に一千四百十五万三千円に縮

最後9八項の諸支出金で――

ので、八百万円をここに計上いたしたわけでございます。

五十八万九千円を追加財源といふしヨリた。国庫支出金

は社会福祉——事務負担金 都市計画事業費負

担金、失対り補助金——施設り補助金——

委託金等でございす。第七款り交付金は、三十二万八千円で

ございす。が、こゝは従来——寄付金といたしまして

伊戸地区、船形漁港、館山港修築、寄付失対り地え

寄付等が、こゝは事業費変更によりまして更正減に

なるものでございす。それから、四項の教育費、寄付

金といたしまして、百万円は北条小学校の講堂の修築

工事の寄付金でございまして、こゝは金額関係地域から

寄付によることになっております。

五目の保健衛生寄付金、一百万円は——山口公衆便所

をつくる関係で、この経費費、八万円のうち一万円が地え

から寄付になります。十一款の市債は、八百八十五万三

千円の追加でございす。が、こゝは、こゝは事業の変更



更によりまして、当初予算に計上いたしまして起債額に  
変更がきておりまして、今回更正をするものでございます。  
なお、自主再建債といたしまして、一千四百十五万三千円計  
上いたしましては、これは八百石円を三十一年で解消する  
という目標を樹ててそれに計上する關係で繰上流用  
分だけ、こゝに財政再建債として現わしておくようにと  
うことでございまして、これは實際はただ形式だけで  
ございまして、この再建債の融資はございせん。以上。  
議長（石井潔君）四十七号議案ないし、四十八号議案一括  
御質疑をお願ひします。

二十番（鈴木市蔵君）人件費について質問いたしますが、こゝに  
は———について関連性がありますから、市長さんにと  
伺っておきたいことがあります。これは新聞でやま—たん  
ですが、市の吏員の中で給料が上がる人は上がる。上がる

ない人は上がらない。それを職員組合から抗議を申し  
込むというのを新聞でちっとみたんですが、それで調  
査をしてみたんですが、四五人のものを調査してみた。そう  
したならば、いろいろの答えが出てきたんですが、前議会にお  
いて伊勢が議員からなぜ国家公務員法は地方公務員に  
準じて給与ベースを上げないかという質問に対して市長  
さんや答弁では、館山市は財政が困難であるから、そういう  
ことはいまのところは不可能だから、いまこりまでやって  
いきたいというように答弁があつたんですが、どうも私  
は不思議なんで、それで調査をして、四五人調べた。そ  
うしたならば、一年も――その人は全部

昭和二十年、五月を中心にして――そうし

たならば、その五人の中の一人が昭和二十九年の十一月に一号  
俸上がつておる。それから昭和三十年の七月にその一人が三

号俸上がっている。その場合、あとう四名は、一号俸ずつ、全部上がっている。三十年の十月は、その一人が二号俸上がっている。そのときに五人の一人が一号上がっている。そのつぎに三十年の四月に、三名のものが、二号俸上がっていて、あと二名のものが、一号俸上がっていて、あと三名のものが、そのまま据置き、こういうふうになっているが、この給料をどう上げたかについては、そういう見解があつて、こういうふうにあげたと、その点を御答弁願いたいと思います。

市長（田村利男君）月給の問題でございますが、いろいろ六村合併に伴いまして、各吏員のデコボコが非常にはなはだしいということが強く叫ばれておりますので、調整の關係、または勤情の關係ももちろん入っております。いろいろ勘案しまして、秘書課長に命じて実施させておりますが、以下課長から説明させていただきます。

秘書課長（山谷潤昶君）ただいま、御質問にお答えいたします。

まず、大カ村合併後給与調整ということを職員組合から強く要望されておりました。一か一か給与調整は早急に調整するということは――

――それで最初調整に当りまして勤務年数、役所に勤めた年数、これを基準にしてある程度調整した上でございます。その後、これは勤務年数、それからみによるべきものではない。年令、学歴、過去の経歴年数、これによるべきが正しいんじゃないか。そういう見解のもとに昭和二十九年の十月だと思っておりますが、人事院で――

――市役所職員、各個人個人に関する過去の経歴年数、学歴、そういうものを勘案しまして、その後、昇給を作成したりするでございします。たまたまある職員が同じ職務といいますが、それら、職員からみまして、著しく低かったらでございします。低いと同率

にまで持つて行くのはまだ早い。一応過去の経験年数、学歴、  
そういうものを勘案して、その人の適性であるという適性  
給料を一応出しまして、どこまで持つて行っても、差し支えな  
いんじゃないか。そういう見解のもとに、どこまで持つていったら  
でございませう。そして、そういうものを、出して、市長  
さん、決裁をもらったのでございませうが、この過去の経験年  
数の計算の方法、これは、現在、私どもが目標としております  
ものは、在家庭、家庭におった場合は、一カ年、年数を二割五  
分、三カ月みる。また自衛隊に行っておった期間も二割五分の  
期間として計算する。また、民間会社において、事務系統  
とやっておった場合には、一カ年、八割を経験年数として計算  
する。また、同一官庁、例えば、県庁とか、他、役場とか、役  
所、そんなところにおりまして、同一官庁におりまして、ものに對し  
ましては、一カ年、経験年数を十割みまして、一カ年とする。

二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

こういう計算でもってやっております。それに基づいて、各個人個人の適性給料というものを一応把握したのでございます。それによって、適性給料というのをきまいたところが、現在、職員が給料は、その適性給料に比較して、十五号以上、下回っているものもあり、また、十五号以上、下回っているものもある。こういう結果になったのでございます。こういう差が三十号、そういう差があるので、これをこうきまにしておいて、ただ、定期昇給をみない様にやっていた場合には、近づくか、かかる停年制、例えば五十と決った場合にある職員は、三万月以上ももらって停年になる。あるものは、一万二、三千月で停年になる。これは、両方とも同じ恩給つく職員でありながら、余りに不公平ではないか。そういう見解のもとに、どうしても、これは、過去の経験年数というものを相当大きく採り上げなくては、いけない。

こういう点から、今調整しているわけでございます。最近新聞紙上でも御覧になった職員組合から云々ということでもございますが、これは別に職員組合から抗議はありません。ただ、懇談なり、昇給について説明を求めたいからというので、職員組合の役員会を開き、その席に私も臨んでおたつてございまして、私の方で現在一つある調整法を話したわけでございます。その後秘書課に対して資料を借して、こういう申し出がありまして、資料も貸してあります。又聞するところによりますと、職員組合としては、この過去経験年数の計算の方法、例えば、在家庭、家庭におったものを二割五分、かみない。また兵役関係のものも二割五分、かみない。これは余りに低い。もう少し多くみてもらいたい。こういう意見が出たようにも聞いております。また他の官公庁、同一系統の他の官公庁におった場合、

十割、人事院調査に基いて十割みているのでありますが、こゝは少く多い。こゝをいくらか下回わらせたい。こういう考えも持っておるようではありますが、しかし職員組合としては、総会を開き、全員に諮ってある線を出したい。こう考えておるようでございます。なお、その相当額を上回わっている職員に対しては、一時給料を下げるということは、総額においては変りませんが本俸、そのもうを除き、その差額が上がっているもう一分を調定額、そういうもので、昇給してもらいたい。こういう要望が出るようでございますが、それは別に

よく検討

ーたいと思っております。先般、私はある地方を三、四視察したっておりますが、ある市によりましては合併の際にその過去の経験年数、学歴、そういうものを勘案し、まして六千円下げたものもある。また六、七千円上



げたものもある。こういうふうにして合併の際に一応御破算に――して全部やったために、そのときはずい分不平が出たそうだが、最近では不平というものもなくなつた。そういうふうになつてゐる市もあります。こんど私の方でこんごう要求につきましても、こういう悩みはいつまでもつづくであります。当分と思ひますが、幸いにして職員組合が細かい点まで突っ込んで調査し、それによつて市の方へ要望といひますか――したい。こういうことでありますので、主管課や課長と――ま――ては、ずるい考へてございしますが、いくらか肩が軽くなつたような氣になつてあります。どこまでも、私は大多数の職員が満足行くような給与方法でもって行きたいと思つております。いつも昇給、またはいつか人事異動につきましても、不平という職員は、かならずあるもので

— 山 田 清 三 —  
ございます。こゝは全部満足行くということは望ま  
れないであります。同じ人間同じ勤務—まして同じ  
年数を勤務—しており—ても片一方ははじめにゑつて  
おる。そう思つておゝは同じに昇給—した場合に—じめに  
ゑつても同じに—ないか。こういうことになります。

なおまた私の方で著しい差額をつけて昇給—ました  
場合には、ふだん急慢であつても本人自身はなんだ同  
じにゑつておるんじゃないか。それにもかゝらず、俺だけは  
どう—て昇給させなかつたんだと。こういう不平も起きま  
—て、必らず一部—りものには不平が起きるんでございま  
すが、私はいつも考へておることは大多数—職員に満  
足行くようにそれ—み、念願—て調整等に当たつておる—  
であります。

二十番(鈴木市蔵君) 誠にさくわかりました。ただいま御説

明り中に學歷云々から年数云々というところが出たんですが、病氣云々ということはおませんでした。ほかの官庁は要するに税務署あたりでは病氣をすれば昇給が遅れるということをよく聞いておりますが、私は役所の中が不平不満があるということはおきりもおさず。

いうふうに解釈しておるものであつて、今後とも余りこの給料の上がる率がずい分デコボコがありすぎる。この点においてこういうことがないように、今あなたがいふた實際にこの人をも上げて、他に名分が立つような方法でもって一ていただきたい。以上申しまして、要望をお願いするものでござります。

秘書課長（山谷潤祖君）ただいま、病氣のことがちつと（おま）さんですが、病氣といつても、こゝがその都度一年二回あります。勤勉手当において差がついておるのをごさ

います。休職とか、病欠、勤、そういう場合には、勤勉手当というもので差がついておきます。過去において病気で、そうとき昇給しなかったとか、そういうことをもって将来五年、十年まじめにやった職員に対して、お前は過去にこういうことがあったから、休職したことがあるから、給料は、いつまで経っても低いんだ、こういうことは、ないと思っております。ただいま、鈴木議員がおっしゃった御趣旨に對し、ましては、こんご十分、気をつけてやりたいと思っております。

十一番

（今、問題に關連し、まして昇給の問題

ですが、一般官庁、あるいは――

――こういうもの

のは、昇給の規定というものは、細かくできております。例えば、病気で休んだものは、十四日まで、すなわち、自分の病氣、結核とか、健康管理とか、そういうもので休んだものは、また別ですが、普通の病気で休んだものは、

規定があり

ます。それから特進させる場合には勤務成績が優良であつた場合に一号俸特進させるとか、あるいは一号ないし二号特進させるとか、そういうもうが細かい条例があつて昇給させる人は成績優良であつて、その項目に該当している場合には、ゑつてもいいという昇給規定を適用させるわけです。そういう人が連続的に何回もつづくということは、その人がすぐれた優秀な成績をもつてゐるという場合には、そういう特例もございますが、平常の場合では絶対そういうことはないわけです。ですから一律に普通う状態に勤務している場合には、公平に昇給が上がつて行くのが普通う状態にあります。ただ欠勤したけれども、今までまじめに勤務しておつたから、どちらにしても、昇給は延ばしてゐないんだと。

そのまゝ上げて行くんだと。それは結構なことであり  
ますが、一部、そういう問題について、やはり不平が  
多いんじゃないかと思ふんですが、これは御参考までで  
すが、できれば、細かい昇給規定というものをつくりまし  
て、秘書課長さんや、市長さんへ感情だけでもって上げ  
たり、下げたり、をやらぬように、すっきりした形で納得  
行くようなものを細かいものをおつくりになつたらどうかと  
私は考えるのであります。

・秘書課長（山田潤昶君）ただ今申し上げるのを落しましたん  
ですが、長期欠勤者に対しては、休暇日数を減らしてし  
まい、なお、その後欠勤日数三カ月以上にわたつた場合は  
条例によりまして給料は半額にしております。ただし、  
休職を命ぜられた場合には、結核の場合には七カ月、普  
通病気の場合は六カ月と規定しております。

議長（石井潔君）他に本案に対して御質問ございませんか。

三十二番

（補助金、交付金、件でございしますが、この

計画書にもあるとおり、これを実施する場合にはこの効果

の内容を檢討の上、実施するんだと、こういうようなことが

記してございます。これは福祉協議会、件でございしますが、

非常に新聞にも掲載され、大きな社会――

館山

市だけの問題ではなく、おそらく県下のほとんど――

ということ、市民も非常に関心を持っております。

これに対する市から――

いただいておりますが、さげろ市としても――

ないとはいえないと私は考えております。この点について

聞聞くところによりますと、監査を実施したということも

聞いておりますが、もし監査を実施したとするなら――

その経過をひとつお知らせ願いたい。それから合わせてもう一件は、これもやはり、市民の関心になったところの問題であります。計画書の二ページ最後に載っております。財産収入、云々という項でございすが、市有財産の管理、この点につきまして、はなはだ粗雑じゃないか、野放しじゃないか、というような感じはどうもさけるわけでございます。これに対して市当局で事実事件として問題に出ておるでございまして、市当局は今日までそれに対してどのような態度で臨んでおったか、ひとつお知らせ願いたい。以上、二点とお伺います。

・二十番(鈴木市蔵君) 今、最後の質問に関連性がありますので、つけ加えていただきます。館山小学校が――

――という関係で西沢、岡田さん――そして――  
――おつて、それをこんどは――  
――という校長の名前――



でもって払い下げていた。この点をどうう理由で、市に教  
育長というものがあつたから、学校当局がこれを払い下げう  
いう点を御答弁願いたい。

五番(萩生田七郎君) ただいま、両議員からう御質問は、

議長（石井潔君）お諮りいたします。質問の第一点、松本議員の質問でございますが、福祉協議会が件につきましては、現在、刑事問題に付ておるものでございまして、この問題をいろいろ監査委員の説明報告がどうようなものであるか存じませんが、おそらく人権に関するような件があるのではなからうかと首肯されるものでございますが、従いまして本会議がこの記録にこれをとることはいかがと存じますので、この件だけとくに秘密協議会に移して御報告を願ったらいかがと存じますが、議員各位の御意見を応伺いたいと存じます。

（賛成と呼ぶ者あり）

十八番）  
議長（石井潔君）ただいま議長が提案に賛成いたします。それでは御意思に従いまして秘密協議会に移します。どうぞよう御了承願います。

議長（石井潔君）暫時休憩いたします。

ニナ号

市長（田村利男君）本会議におきまして、松本議員から市有財産の問題につきまして御発言ありましたが、たゞかに館山市内におきまして各地区に市有財産がいろいろ事情によつて明朗を欠いているところが多数あることは事実でございます。それで、市長におきまして近く係員を以て嚴重に調査させまして逐次訂正いたしまして一日も早く明朗な館山市の土地ということを期したいと思います。さう、御承知願いたいと思います。

議長（石井潔君）本二議案に対して他に御質問ございません。

か。

五番(荻生田七郎君)私は原案に賛成しますが、——

——と思いますので、——

受け入れ体制が

完備——たあとに——ということをとくに市長さん

に要望いた——まりて原案に賛成するものであります。

議長(石井潔君)他に御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議はいもうと認めます。よって本案は

原案通り決定することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。よって本案

は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君)本日の会議日程にたどり市長より送付と

なりました議案第四十九号を追加議題といたします。御

異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。ただいま議案を配付させます。議案朗読を省略してよろしゅうございすか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）それでは御異議ないものと認めまゝで第四十九号議案は原案通り決定いたします。

議長（石井潔君）こゝをもつて閉会いたします。長時間にわたつて審議をいただきまゝてありがとうございます。ごうまいま。



